

1977 年 7 月号

No. 17

あんふあんて

発行人 / 発行所 / あんふあんて出版部



逐次刊行物

昭 53. 7. 16

岡山県立教育会館
情報図書室

詩・弓削

(イラスト・矢郷)

一人の男に、あるいは一人の女に、
「てあう」ってことは、そんなにむずかしい
ことなの？
一人の男と一人の女に限定しなければ、生き
ていけないなんて、どうして思い込んでしま
うの？
男のあんたに、女のあんたに、
今、あたしはもう一度聞きたい。
まだ子供もいなくて、あたしも、あんた達
も、みんな自分の生きることばかり夢中で
どう生きようか、答も出せなかった模索時代
の、あの頃の一人一人に立ち戻ってみないか。
あの一人一人の基本に戻って、あたし達の関
係をとり戻そうよ。

子供がいるからって、だからってあきらめな
いで、
もう一度一人で立ってみようよ。
そうしてまた、あたしはあんたと出あいたい。
自由な男と女として向きあいたい。
そんな言葉も、もうあんたには聞こえない？
たとえもう二度と、あんたと出あえないとし
ても、あたしはやっぱりもう一度、基本にた
りどって生きていくよ。



あんふあんのての

目



変わらない男・変わる男

以前、朝日ジャーナルで「変わる女、変わらない女」という特集があった。要は、表面的にいろいろ新しい動きが出てきて変わったように見えるが、女の内面的なものはなかなか変わっていないのではないか、ということだったように思う。もちろん世代的に変わるといことは女も男も含めてあるのだから、その中でも女と限定して言及している以上、特に女たちの動きが目立ってイイ線いって、「変わりうるの」に……といった思いがあるように感じた。「変わりうるの」……どうして変わらないの？「みたいな追求する感じではなく、どうして変わらないのか、いっしょによく考えてみよう！」という感じにならぬもんかなと若干の抵抗感をもったのを覚えている。

問題はそこではない。女と限定している以上、当然残りとして男があるではないか。男が変わるための参考として、まず女が、自分が、変わっていく時のことを思い起し考えてみよう。第一に、常々、これでいいのかしらと疑問符をいっぱい持っていること。第二に、同じ考えの人と出会うこと。第三に、話しを積み重ね、互いに刺激し合い、疑問符を少しずつ解明していくこと。第四に、対処方法を考え計画すること。第五に、行動に移すこと。第六に、さらに行動範囲、人間関係を広げること。などではないだろうか。要するにポイントが、疑問符・人間関係・行動だ。では、男の場合を考えてみよう。疑問符をもつということ。これは大体が、少ないのだ。現状が居心地がよいのだから。唯一、かかえている疑問、不満としては、働きすぎ・ハードさだろう。これとても、決して口には出さず（男のメンツにかかわることらしい）心の中で密かにくすぶらせているくらいだ。次に人間関係。7人の敵とかいう言葉があ

るくらい、男は人間関係において敵対するものとしてしか他の人間をとらえない傾向が強く、立場や思想というものにガンジガラメにされている。仕事とは無関係の全くのフリーで本音が話せる人間関係をもっている人は少ないだろう。又、新たな人との出会いなんていうのとはおよそ縁遠い生活だ。最後の行動となると、せっつかれないと腰があらがないし、やるとしても気まぐれでしかなく、生活の中にくり入れた自然な形になっていないのが現状だ。

人間が一人で生きてゆくためには何が必要かという点、自分の口は自分で養い、自分のことは自分でするという大原則があるのにそれを忘れ、お互いがもたれかかり、責任をなすり合いっこしているのではないだろうか。素朴なところでの疑問符を持ってなくされていること、豊かで広がりのある人間関係をもてなくされていること、立場・思想によって自分を規制してしまうこと、などに対して男が本心に目を向け始めた時から男の自立も始まるのだ。

男が変わるにはどうすればいいか。女はどう関わればいいのか。本来、男自らの力で変わるべきを、手伝うことがあるかもしれない。ぐらゐの関わりだろう。しかしそれは自分の自立を棚にあげてではない。又、自分の自立に協力させるためでもない。そのへんの関係をみながら、自分の思いばかりをかぶせないように気をつけて、気長につき合うことだ。例えば、ハードさ・不満・疑問符を出しやすくしてあげることから始めてみてはどうだろうか。（古知）

来年度へのよりよい

試行錯誤へ向けて

今年度の反省



51年10月の年度始めに決定したことを思い出しながら、来年度への踏み台となるべく反省をしていきたいと思ひます。決定したことは、基本的な方針として

- (1) 妊娠・出産・育児を含みながら女たちがつながる会
- (2) 各自があんふあんとすることが原則
- (3) 今後のテーマは次の三本柱を具体化する。
 1. 女としての自分をいきいき生きる。
 2. 子ども・夫・友だち・地域などの人間関係を考える。
 3. 物を通して社会とのつながりを考える。
 - (4) 展開方法としては地固めの方針

- (A) 14名のスタッフが基本方針に従って具体化運営していく。
 - (B) 事務局・地方、編集部、企画・催事、資料・調査、広報・渉外、会計・会計監査、フリー、と分担してやる。
 - (C) 分科グループをつくり活動を広げる。
 - (D) 共同保育・ヘルパー制のみなおしをする。
- これらのことその他、参加費に關してのことがありすが、金銭関係のことは、決算・予

算の時にしたいと思ひます。誌面の都合上、こまかい反省は載せられないので、ポイントだけになってしまいます。御了承下さい。以下については前を照し合せ読んで下さい。

- (1) について
 - ・特に妊娠・出産の部分が弱かった。
 - ・男性の関わり方について時間をかけて検討していくことだったが、話し合いはすすんだだろうか。

- (2) について
 - ・尊重されていたと思う。

- (3) について
 - ・3の「物」の意味がわかりにくかったと思うが、要するに抽象論や理想論ではなく、現実的な「具体的なこと」ということとの意
 - ・展開のしかたが、無理がなく自然な反面、計画性に乏しかった。

- (4) について
 - ・クチコミ中心に金銭的安定のためにも1000名位にしたい。グループ・会員のつながりを密にする一方、へんに固まりすぎず、等の方針だった。
 - ・グループの公報への掲載、クチコミによる友人の勧誘は割と行なわれ始め、自分以外へ伝えることができるようになった。
 - ・現在780名でまだ安定路線ではない。
 - ・新会員中心にコミュニケーションを密にすることはやっているが、グループ・旧会員とは絶対量の不足。
 - ・フェイスシートを活かせていない。
 - ・グループアンケートは計画未実施。

・あんふあんと外へ向けての動きが終始受身的で積極性に欠けた。

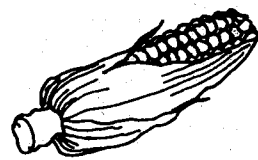
- (A) について
 - ・スタッフの個別状況の変化は予想以上だった。
 - ・14名という人数の多さには決定や連絡に時間がかかるというマイナス面もあった。
 - ・実際の動き方が大きかった。

- (B) について
 - ・担当者が提案リードしていくという程度の分担であったが、全体を把握しきれていないうちの部分的分担は無理だった。
 - ・分担の内容の中でも、最低限不可欠の事務局・会計・編集・催事だけで精いっぱい、それ以上の活動の広がりふくらみはできなかった。
 - ・事務局はスタッフと併行しての専従1名では無理。現在応援2名あり。
 - ・情報誌は少くとも毎月発行は達成できたが、一貫性、計画性に欠けいつも中途半端な感が残り、又、書き手が限定されオープンな相互コミュニケーションになりにくい。
 - ・催事は参加する人が限られ少なく、設定や呼びかけを考え直す必要がある。

- (C) について
 - ・自分の中で未整理なうちに不自然にスタートさせ、無理があった。

- (D) について（別ページ参照のこと）
 - ・批判・意見・感想など待っています。

男からの手紙



勝手きままな、女と男が出合って、勝手きままな共同生活を始めたと思っていたのに、子供を生み、育てる中で、保育する者と、飯のために働く者との、分割が生れ、女と男の原点が、しだいにばやけてしまっ、物事におわれる日々へと、迷いこんでしまった。

自分の「生」を、生ききれない状況へと、押し流されていく生活に、変化させられた日々を、再び女と男の原点にもどし、子供をからめて、自由に生きたい。一人一人、独立した個々の人間として、女と男として、自由に生きたい。

僕達男の自立は、女の自立なくしては考えられない。けれども日常の中で、女達への差別は、山積され、女も男も、からめとられている。男達は、男同士差別しあっている。

僕達男は、日常生活の中で、その差別にめざめ、また女達のアドバースにたよりながら、差別をなくさなければならぬ。生まれた時から、女だから、男だからという差別の中で育てられた者にとって、肉化してしまっている差別を改革することは、たやすいものではない。

ない。しかし、それをしないかぎり僕達の開かれた未来はない。

女と男の違いが、どれだけあるというのだろうか。たしかに、肉体的な差異はあるけれども、それが日常生活の中で差別となって表われる物は一つないはずだ。にもかかわらず、差異が、即、差別とすり変わっているような部分があり、随分差別として進んでしまっているし、女の立場を決めつけている。女達だって、男達と同様、自分のかせいだ金で、食い、遊び、そして明日を創る事を望んでいるにちがいない。

保育を、家事を、男達と分かちあひ、日常の雑用からすこしでものがれて、自分の生を自分で選択して、生きていきたいにちがいない。女も、男も、一人で生きていく技術を身につけなければならぬ、対等にはなれないのだ。男達よ、女達のもとへ、子供達のもとへ、帰ろう。そして、家事を、保育を、女達と共にやろう。

僕達にとって、仕事とはそんなに重要なものなのだろうか。女達や子供達とのつきあいを犠牲にするにたいするものがあるのだろうか。たしかに、食う事において、働く事が必要である。だからといって、必死で働く必要はないはずだ。

働くという、本来的な姿は、確かに楽しく、生きる事と、密接につながっているように思う。けれども、現在の状況で働くということの中に、本来的な姿は、何一つとしてない。未来を語れるものが、何一つとしてない。

人間の未来を作り、現在の生活を、よりよくするための生産物の誕生がないのだ。公害があり、人間の存在そのものさえも、

あやうくするものでしか、労働とかかわりあひは、ありえなくなりつつある。

食品には、人間の染色体さえも、おびやかすものが入り、重工業は、武器を生み、命のたつとささえも、金でかんさんしようとする、労働の場とは、一体何んなのだろう。そういった、企業とかかわりあひの中で、人間的になろうとしても、なりきれものではない。働けば、働くほどに、非人間的とならざるをえない状況を、もっと注視し、それからの解放を考えよう。

働くことを、やめることはできない、けれども、必死で働く事はやめよう。

僕達、男達は、今一度、女達の、子供達のもとへ帰るべき時だし、女と男のひらかれた関係をつくるべく、歩みを始める時だ。もう女達の、家での忍耐に、保育につかれていく姿に出合いたくない。

こう思いつづける僕も、日常生活の中で、しばしば、男意識をむきだしにしている。つい先日、グズグズと、寝そべって、共同生活を破壊していく僕を、7月末日で4才になる娘が批判した。

「ねえ、チョちゃん（ぼくの共同生活者を娘はこう呼ぶ）、もっといい男をみつけたらいいよ」といっているという意識にたまえ、女によりかかっている僕に、激しい怒りをおぼえたのである。

なんとも、身にこたえた批判だった。ここで、自己批判すると共に、女達と、ひらかれた関係を創るために、前進することを、きまに命じたい。（ちようふのくくん）

共同保育・ヘルパー制のアンケート

集計作業が遅れています



昨年末みなさんに返送してもらったアンケートは合計127通です。内訳は

共同保育のみ 22通
共同保育及びヘルパー制 30通
ヘルパー制のみ 21通

経験なし 54通

で、共同保育52、ヘルパー制51、経験なし54の3グループに分けて、各質問項目毎に分類集計、分析を遅くも9月いっぱい終了し、来期の活動の方針や新入会員向けの手引きの基本を作れたらと思っています。作業進行中にも共同保育、ヘルパー制の状況は毎日変化していますので、回答いただいた方々の実状もすでにちがってしまっているかもしれないのですが、ひとまず76年末の現状として把握する予定です。

スタッフ全員関わっていますが、作業進行のスタッフは渡部、古知、幾代です。回答中、疑問な点などあった場合は直接お電話するかもしれません。その時はよろしくノ

共同保育のアンケートのまとめ方などについて提案、意見などを伺いたいののでグループから最低1名出席して下さい。

8月31日（水）午後1時～4時

千駄ヶ谷区民館（和室）

※あんふあんでではなく「保育懇談会」の名称で区民館を借りてますので、ご注意下さい。（幾代）

（幾代）

あんふあんで主催

初の映画会

「ねむの木の子」(16ミリ、カラー)

子どもが小さいうちは映画も見に行けないので託児つき映画会をやりたいとの声をよく聞きます。スタッフもずいぶん前から何とかやれないものかと思案していたのですが、フィルムの選択や会場、動員数のことなどなかなか実行できないでいました。

今回上映のフィルムの内容については、すでにかなり紹介され、話題にもなったので改めて説明しませんが、見ていない人もまだまだ沢山いると思います。子どものいる女たちにはぜひ推したい映画ですので、この機会を逃さないで下さい。

日時 9月2日（金）第1回午前11時、第2回午後2時、第3回午後6時。
場所 千駄ヶ谷区民館（国電原宿駅、坂下

口から子連れで徒歩5分）

申込み方法 8月20日までに事務局宛お電話下さい。2名以上グループで申込みの方は出来るだけハガキをお願いします。

参加費 大人400円、高校生以下200円
託児料 会員は子ども1名300円（会員外500円）2名500円（会員外700円）

申込みの際、子どもの年令を忘れずに。なお、0才～2才（オムツのとれない子ども）の託児希望の方は、保育の都合上出来るだけ第1回に申し込んで下さい。

この映画会を企画した目的はもう一つあります。9月の「あんふあんで保険」の契約更新の保険料の検出です。予算ではまかなえるはずなのですが、収入が予定通りではないのです。つまり、あんふあんでの参加費今期分を未納している方が300名近くいるため、保険料ばかりでなく、来期スタート時点の資金にも事欠くことが予想されます。前期は関東地区会員による調査アンケートの仕事から得たお金を一部カンバしていたらどうにかやりくりしました。誌面を借りてお願いします。参加費未納の方は、あんふあんでが来期も維持して行けるよう早目に振込みして下さい。

というわけで、映画会にも一人でも多く誘って来て下さい。また、個人、グループなどでアイデアを出し合って、資金づくりを実際にやっていたけると助かります。その際スタッフで手伝えることがあったら、ご連絡下さい。（幾代）

今、地域グループ

では――



武蔵野・三鷹グループ

「ウーマンハント」のすすめ

この所、月一回の定例会は少人数というところであって、雑談に終っています。毎回テーマを決めなければとほとんど無駄なアセリをしています。もしよいアイデアがあれば、定例会が雑談で終わってしまっても、それはそれでよいのではないかと考えています。いろいろな情報交換や考えている事を聞いたり、聞いてもらったり、又それぞれの状況説明のなかから、一人一人様々に違った収穫はないでしょうか？

夜、男がカーチャンに子供の面倒をみさせやれ付き合いた、などと飲み屋で一杯やりながら話すべきは、議論だとか討論だなどと、

もっともらしいお題目がつくけれど、なぜか昼間女が集まって話すと、井戸端会議と自他共に軽蔑してしまおう。

しかし彼等も飲み屋でやっていることは、そんなところなのです。いなおるつもりはないけれど、グループ全体として活動すること、勿論大切なことだけれど、家庭という分断された閉鎖社会に在るが故に、グループの中の個々の結びつきはそれにもまして大切にしたいと思う。

私達武蔵野グループは自転車で行ける距離に住んでいます。我々子連れ族にとって、この距離の近さは、近密さを増す段階として不可決条件ともいえるでしょう。

悲しいかな、我々主婦族は一人身の時のように、両手にあふれる程の自分自身の友人をもつ事も、もち続けることも、とても難しいのです。ちょっと気をゆるめると家庭という魔物に優先されてしまします。夜を徹して語り明したかつての友も又、その魔物にしばらくはいるのですから。

しかし子供が仲立ちでもなく、夫が仲立ちでもない自分自身の友をもつことは、人生を豊かにエンジ・イでできるのではないだろうか。とにかく、かざらず、生身で1にもアタック2にもアタックとウーマンハントをしてみませんか。そして、その信頼に応えられるだけの力量をつけていきたいものです。

◎お願い 練馬区関町4丁目の方で武蔵野グループに入りたい、と、までお電話下さった方、申し訳ありませんが住所カードを紛失しました、もう一度お電話下さい。

北九州グループ

北九州市小倉北区

グループだよりの4号ができました。この号は、終始事務的になりましたが、これといって目に見えた活動のない我がグループにとって唯一の形あるものです。例会のたび毎に問われ続けている「皆は何をしたいのか」「あんふぁんてに何を望むのか」など誰もがあんふぁんてを必要としているのに、ただ仲間意識をもつだけで終ってしまっているようです。現状のままの例会は魅力がない、だからどうしたら魅力ある会合にできるのか、活動を始めたら一年半ずっと手さぐりのままの状態が続いています。育児のこと、夫のこと、生活公害や女性のあらゆる問題など関わってきたい事は山積みしているのに、さてどこから手をつけたらいいのやら、とまどってしまいう感じ。ともあれ、無から有は生まれません。じっとしてても問題は解決してくれない。せめて、自分のまわりの第一歩から前進！

第16回3月例会

テーマ・①この一年自分にとってのあんふぁんてとは。

②欠席者が多かったので、アンケートをとることにした。

アンケート結果 (回収率 18名中8名)

①自分にとってのこの一年、あんふぁんてとは？

・よき仲間を得た。・自分を積極的にしてくれた。・他人におんぶしすぎた。・例会

に出席せず、不活発の一言につきる。

②今一番関心をもっている事は？

・食品添加物、残留農薬のこと。・育児のこと。・日常性から脱却していかにかにイキイキできるか。・音楽に関して。・共同保育・ヘルパー制のこと。

③疑問に思っていることは？

・事務局とのつながりが薄いのではないかと。・レモンの防腐剤が一時騒がれたが今はどうなっているのか。・どうして子育てが女の生きがいなんという女がこうも多いのか。・米・中・ソ関係。・景気の行方。

④「あんふぁんて」でこれからやりたいこと・読書会、紙芝居。・生活公害を自分の周りから追放したい。・夫も含めて、子供との関わり方を考えたい。・授産所や消費生活センターなどに保育設備を作ってもらいたい。

⑤その他

・あまり気負い込まず趣味的なものを楽しんでもいいのではないかと。・特定の人ばかりにおんぶの1年のようだった。・尻つぼみになってしまったこの年度、それは誰が悪いのではない。・自分自身のせいだと思ふ。

⑥続けてゆく意思があるかどうか。・8名全部あり。以上

大宮グループ

昨年末に初会合を持って以来、会合も6月16日(休)で23回を数えました。この間昨年夏に

は実働2名という危機もありましたが、昨年いっぱいには、会員間の技術を教えあい(月2回)パン作り、ケーキづくり、肉まん作り、グリーティングカード作り、リボンフラワー作り、洋裁と行いました。この間は、子供同志の遊ぶ楽しさをつくり、そしてこの1月から月2回の共同保育と月1回の全委員会を持ち、(共同保育10時～12時)共同保育の時は半数の母親が全員の子供を預り、次回は反対をとって、月に1回は各人が預かる側と預ける側とも経験しました。そして4月からは時間を10時～13時と1時間のばし、それまで持ちまわりだった会場を、交通に便利の良い1会員宅に決め、4・5・6月はスムーズに行われました。

そして5月には、近くの大宮公園へ遠足。会員12名、子供の数20名と大世帯になった。個人宅では無理が生じたので7月からは、公民館を予約し、毎月2回2室を借りて、1室は共同保育、1室は勉強室にあてる予定です。すでに予約も完了、7月からの発展に希望を持つこの頃です。

仲間への問題提起

グループレポート

相模原グループ「ひまわり」

「あんふぁんて」7月号(1976年度版)グループ特集号に紹介されている東京及び東京近郊のグループ(東京都内及び都下、埼玉、千葉、神奈川)に電話をかけた話をしました。その結果皆同じように不便さを感じたことがありながら、一過性のものとして、その時

期を「ガマン」して通りすぎてしまい、そのことをテーマにして改めてグループで話し合いをもった等のごときは、ほとんどのグループで話した。また共同保育などを各家庭もちまわりで行い、お互いが近いので、公共施設を利用するチャンスが少なく、あまり不便さを感じなかったといった話もありました。

やはり日常生活から一歩外に出てみなければ不自由さを感じないです。でも、もうというところに、ひとつの盲点があるのかも知れません。グループの活動として単なる共同保育や読書会だけではあきたらしく、次のステップをふんでいるグループもいくつかあります。

・共同保育から発展して、カリキュラムなども組んで、ミニ幼稚園的なものを運営しているグループ(石神井グループ)。

・一軒家を借り切って外国語やお茶、お花、絵画教室など共同保育しながら自主運営しているグループ(デインダン・ドン)。

こういったグループでは、現在の活動が、忙しいので、同じように感じながらも具体的な行動を起すのは大変、ひまわりなどのグループで頑張っている……といった話もありました。

・銀行、デパートなどのサービス機関に対してベビーベットの設置と改善を要求する。

・国鉄、私鉄などの交通機関に、妊産婦や、乳幼児をかかえた人のために、席をゆずるように車内アナウンスやポスターなどでキャンペーンを組んでもらう。

相模原ひまわりグループも例会など、集まりが、もう一歩という所で、自ら積極的に、あんふぁんてする意志のある人に参加してもらいたいということです。

「働く」を 考えよう



その一

梅雨に入った6月12日に6名で集まりました。

次に話し合った中から出てきた問題点をいくつかあげていきたいと思います。

1. なぜ働きたいと思ったか。

女が働きたいと思う時、単に収入を得たいということだけでなく、外の世界にふれたい人間関係を広げたい。家事、育児だけではつまらない。等と考えるわけです。ところが、共同保育などを始めると、そういう不満が解消されて、満足してしまうのではないのでしょうか。もう一度考え直してみるのが必要がありそうです。

2. 女の働き方の問題

食べること、着ること、寝ること、子供を育てること、働くことは、人間の生活の中でごく基本的なことだと思ふのです。これらのどれも切り捨てずに、自分が関われる生活こそ人間らしい生活と言えるとあります。しか

し現実の社会を考えると共同保育に関わりつつ、フルタイムで働くことなど不可能なわけですね。又、職業を選ぶ場合、とすれば専門的な仕事をやりたいと考えがちですが、プロフェッショナルなスペシャリストをめざすということは、結局この社会的仕組みにのっかる事になり、人間の基本的な生活は自分の手でやろうとすることとは、程遠いものになってしまふと思われれます。理想を言えば、労働時間が短くなつて女も男も家事、育児に参加できるようになればいいわけです。しかし私達が今現実に行っている社会は、理想からはあまりにもかけ離れていると思われれます。私達のグループでは、どうしたら理想に近づけることができるか、その方法を探っていきたいと思っています。

何故働きたいか

女としての年令と肉体的限界に迫られて、結婚し、子供を育ててみたくて産みました。夫亡き後、一人っ子の私の夫にしがみつこうにして生きて来た、どこをたたいても明治の女でしかない姑と夫との間でもがき乍ら、その反動も手伝ってか、育児に異様な程の情熱を燃やしました。純白の赤子を抱き、母の手一つで黄にも赤にも染ってゆくその恐ろしさに脅え、必死で努力をしました。ところが育児にも家事にも全く休憩というものがありません。全力疾走は長くは続きません。ついにダウンし、50日間、肝炎で入院。おまけに心臓病の宣告も受けました。まな板の上の鯉

となり、観念し、世事を忘れ、ひたすら本を読み、友と語り、快復期には映画を観に外出したり、青い空をほんとうに青いと思える素直な感受性と、健康な体を取り戻すことが出来ました。そんなわけでこの入院生活に悲愴感など微塵もなく、何重にもからみ合った複雑な人間関係もなく、テレビもラジオもなし、めまぐるしい世の中の動きなど俗世から遠く離れた別世界、疲れ果てていた私にとってはまさに月世界でした。生まれて初めて独りであることの喜びとその自由を知りました。姑は明治30年生れ、夫に任せ、子を育てることが生活の全てで他に何もなし、明治の嫁は、こまめに一日中動き廻り、暇をもて余している姑のなぐさめ役となり、夫の世話をして子供を育て、油さえ注ぎ込んでおけば、決してこれない万能機械。ところが今、新しい高い教育を受けた女達は主体性を持ち、女も人間でありたいと願う。両者の溝はどのようにもならない程深く日常の摩訶は、かなりエネルギーを消耗する。そして、ある日ボツンと夫に先立たれると、今度は子供の細い両腕にベッタリとしがみつ、その子が養育し、やがて父となつても腹を痛めた我子は自分の全てでしかない。身振するよう動物的な主体性のないどうしようもない女の悲しさを見、女としての身のふり方・母と子の関係のあり方を痛く考えさせられました。確かに子育ては重要で、少なくとも平和を愛し、責任感のある人間に育てる責任があります。けれど、病気になる程どんなに一生懸命育児に努力しても、子は子、親は親、全く別個の人格です。このことを忘れてはならないと思う

のです。子は決して決して親の所有物でも老後のためのものでもありません。やがては巣立ち、自らの人生を逞しく歩んで行つてもらいたいものです。そして子育ての終った母も決してたじろがず、自分の人生を追求して生きたいと思うのです。

子供から決して同情などもらうような淋しい女にならな果てず、やがて子やその孫と世代の差を乗り越えて語り合えるような豊かさを感じたい。そうあることがいづれ、他の人間関係を、より円滑にすると思ふから、このような考えが非常に強く心を支配し、そのためには仕事をもち、経済的にも自立したいと思ひ、そしてあふふふんてに入会しました。

幼児教育を学びたいと思ひ、大学の通信教育を受講しました。さらに子供の状態を知る為、多勢の子供との接触を試みたいと思ひ、共同保育を始めましたが、持病の方が意外にだらしない、肉体的限界を感じ、脱会、目下、次のタイトルを模索中です。

私の救世主

「働く婦人」の仲間入りをして以来、何故？まるで自分をすり減らすために行動しているのかと自問自答しながらも何かを求めて苦しみ続ける。独身時代には考えられなない身の煩雑さ、まして人をリードする立場にあつての対人関係は、泣きたくなる様な日々の連続。今まで自然に社会の一員として生きてき

たつもりだけれど、主婦・労働者として振舞うことがこんなに厳しいとは……。

「だから女はするいよ」と言われそう、今更ひきさがること出来ず、プロに徹したいと努力するのが本音。こんな時、仲間を求めてさまよう私の魂が宿る先は、やはり本の世界。そこに落着く時、再び生気は甦り、強く生きることに意味を噛みしめる。

人と軌跡「9人の女性に聴く」を眼にして一層感慨を新たにしたのは、明治の女、大正の女、封建社会の重圧に耐える女達が、自らを殺すことなく毅然と生きる。そして家庭を無視することなく、むしろわがままな家族に悩まされながら、芸術に對し、情熱をかけたものに対する素直な気持を表現し続けて来た事である。今こそ自由が氾濫し、女性の実力を大いに発揮し得る時代と思いつつも、仲々どうして一歩を踏み出せないの。彼等の時代とその葛藤とは如何なるものがあつたか計り知れない。

やゝもすると崩折れそうになる心、それを引き立てるには決まって、平塚らいてうのあの言葉、「原始、女性は大太陽であつた」を思い浮かべる。「青鞨」発刊にまつわる数々のエピソード、現代風に脚色された舞台しか触れることは出来ないが、当時のじゃじゃ馬娘達が結局は我々に一筋の光と道を与えてくれた。伊藤野枝、岡本かの子、田村俊子の面々も過去の人では無い。日本の女性史に名前を連ねるだけでなく、女の生き方は誰にも束縛されないことを今なお示してくれる。私達は月であつてはならない。自ら光を発する、太陽なのだ。

離婚を考えるグループを つくりましたの反響は……

情報誌6月号に呼びかけて、2週間程になりわずかながら反響がありました。手紙が3通と近くに住む人がひとり、みんなそれぞれに真剣な心がうかがえるものです。長いこと離婚を考えている人、今の一見安定した生活に浸り切つてこれだいいのか？離婚を念頭におくことなしに自立はありえないのではないかと悩める人。結婚は体制の論理だという人。ともかくみんな言いたいことがたくさんありそうです。ひとつの方向としては、離婚に関する多くの情報を集め、「私はひとりでも生きていける」という自信をもち（離婚するしないは別として）居直っていくなかで、結婚制度のこと、子供のこと、一緒に住んでいる男又は夫のことなどを考え直してみたいと思ふのです。そこから身近にいる人との今までとは違つた生き生きとした関係を創り上げていくことができれば、素直な心ではありませんか？もし、幸か不幸か離婚することになったら、私たちがまわりの者でさえ合つて生きていけるような結びつきを創りたいとも思っています。7月中にはみんな集まつて、ワイワイガヤガヤと動き始めます。集まりの日程、話し合いの内容など出来るだけ公開するつもりです。やりたいことが山積みといたところですが、どんな風に進んでゆくやら、当事者である私も楽しみにいたしております。

横浜交流会の報告

7月6日(日)、横浜での初めての交流会が開かれました。横浜は会員が多いので、さぞかし多数の参加があるのでは、と期待していましたが、スタッフ2名、会員5名、子ども9名の参加にとどまりました。

メンバーのうち3人が双子を持つという珍しい横浜グループに所属している川上さん、栗原さん。地域がバラバラのため読書会をやっているぐらいで定期的な集まりを持っていない現状との事。

前号16号の「いいたいほうだい」に原稿を寄せていた土居さん。

子どもが一人の時、託児付きの工場で単純作業の仕事をやったが、その時は働くことがものすごく嬉しかった。けれど、2人目が生まれ2人の子を預けて働くことには迷いがあるという3ッ境の山内さん。

共同保育では、たいして自由時間がもてないので、自分でやりくりした方がずっと効率的。2人の子連れでどこへでも行くようにし、友人に預けてバイトや習い事もかなりやり切っているという戸塚の児玉さん。

意見は浅く広くという感じで話しが進みました。グループづくりの難しさについては、自己紹介ばかりしている状態が何回も続いてその後どういう形でやっていくのか方法がみつからない、ひっぱっていき人はいないとダメなのではないか。又、現在のあんふぁんては子育てのまっ只中にいる人ばかりで、子育て

てをある程度終わった人、子なしの人とのつながりがみられないのが残念という意見。男からの手紙はほとんど載せてほしい。夫に読ませると反応があるので変えていける小さな力になるのでは、というのは全員一致。横浜ならではの何か集まりを今後は横浜の人の手で作ってほしい、というスタッフからの希望をしめくくり、2時間半の話し合いを終えました。(渡部)

8月交流会のお知らせ

日時 8月6日(出) 午後1時半
場所 神宮前区民館 和室
神宮前6丁目 原宿駅下車徒歩5分

今年度の反省会及び来年度へ向けての方針の話しあいです。スタッフに希望すること、あんふぁんて全体に対する意見等、是非みんなで話しあいしたいと思います。暑い最中、大変ですが多数ご出席下さい。



保育問題研究グループ

「混乱する幼児教育」のミズ・スクール以来、グループでは、まとまった討論になりきらず、どうも計画的でなく、こんなことしていいのはススである、1つ1つやらなければならぬことが山積みしているのではないかと、重たい腰を上げつつあるところです。

4月24日、八千代市の北東公会堂で行なわれた時は、さまざまな雑談懇談の中で、特に問題となったのは、越境進学のことでした。エリート志向の差別分断路線にのっかることは否定しても、落ちこぼれることを回避したい気持ちがある以上、結果的に消極的にのっかっていることになるのではないかと、等々。

6月5日、田無のディン・ダン・ドンで行なわれた時は、働くことと子育てというテーマでしたが、話はディン・ダン・ドンのことなどが主でした。当日は夫たちが階下で椅子をつくっていたのですが、労働はするけれど、話し合いはあまりしないとのこと、もったいないナァという感をもみました。

7月3日、飯田橋の富士見区民会館で行なわれた時は、テーマは父母会活動ということでしたが、夏に向かってスイミング教室みたいなのがはやってるようだけれど、果していかなるものか考えたり、調べたりしてみようか等と話したりしたのも暑さのせいでしょう。次回は7月31日(日)午後1時半〜5時、滝野川会館(京浜東北線「上中里」5分)。(夜)

図書コーナー

◎此処に生きる・群像論

(ユニ研叢書Ⅱ)

あんふぁんての会員の文が2つ載っています。さん「親がめ、子がめ」——親はあっても子は育つ——現在2才の特別元気ななおくんの育児奮闘記。

さん「整体出産の記」——産んで太らない、美しくなる、感度もよくなる、母乳の出が良くなる、等の効用がある出産法ときき、野口整体の出産を試みてそれについて書いています。これから産む人、2人目と考えている人。いままでの出産で体に向かの不調をきたした人。病院管理の出産に疑問をもつ人に。

原価600円+送料120円を切手で同封して左記へ申し込んで下さい。

◎独断的ニューマガジン評

▼クロワッサン

そもそもニューファミリとは存在するのでありまじょうか。子どもを気軽に預けたり、妻が男友達を求めることに何のこだわりもない夫がいたり、仕事やつきあい夜おそい夫が快よく家事、育児、掃除をひきうけたり…。本書を読みますと婦人問題は全て解決してし

まったかのようにあります。

▼アルル

表紙とスタイルだけは新しくなったが、という感じの「主婦の友」。「婦人生活」etc。前書程の架空な内容もない代り、あいもかわらぬ主婦の女たちの生きざまがちっとも変わっていないことを示す。この本によって、ニューファミリーの仮面ははがされる。

▼モア

キャリアウーマンって何? 日本にはそんな女性少ないヨ。勉強したくても進学できない女性が多数いたり、熱心に学び自己のアイディンティティを求めている女性が2、3年で会社をやめなければいけない日本の現実、モアの読者は泣けてくることだろう。あまりにもエリート的、都会的。ただし、見る雑誌としてはトップクラス。心情的エリーートのハートをくすぐっている。

▼わたしは女

ごく普通の女が差別をこえて生きようとする姿が生々しく伝わってくる。このような雑誌が月刊誌として発売される背景には、多くの女たちの差別への怒りがあってこそだろう。

情報コーナー

▼三鷹市勤労青年学級が6月28日から開級されましたが、その中に「女性問題コース」が設けられています。見落としがちな女の問題を身近なところで考えていく予定。当面は恋愛・結婚・男らしさ女らしさ・性差別などなど。毎週火曜午後7時〜9時、子連れも可。無料。参加希望者はお電話下さい。

▼ヘルパー求めています。

当方2才半の男児、月3回木曜日午後1時〜4時半まで預かって下さい。他の曜日は預りません。なるべくおむつのとれた子供1人の方を望みます。



スタッフ便り

うっとうしい梅雨も明け、海・山のシーズンになりました。スタッフ一同張り切っていると、言いたいところですが、生身の体ゆえ色々な問題を抱えながら集まっています。

梶本さん……7月8日に無事、女児を出産しました。当分の間、赤ん坊にふりまわされそうです。

幾代さん……中村屋サロンの方の仕事が一段落つき、また／＼あらゆる事に意欲を燃やしています。

野口さん……病気の方は一進一退という感じで、相変らずへばっています。早く元気になってまた情報誌づくりに励んでもらいたいものです。

羽鳥さん……会社勤めも慣れ、またタイプの方を引き受けてくれています。

とまあ、ザッとこんな具合で、暑い夏を迎えますが、海・山に子連れでどんどん出掛けましょう。かくいう私は、海もダメ、山もダメで居直ってくすぶっています。(佐久間)



事務局から

☆来年度へ向けての事務関係の準備中です。特にもちろんお金のことです。今年度(52年9月まで)分が未払いの方々には、今回振込用紙を同封しました。なるべく早めに、精算をお願いします。又、かなり未払のたまって居る方は特に、来年度の参加継続の意志の有無を明確に知らせて下さい。

☆少くとも土台づくりだけは、今年度中にやりきってしまわないと、来年からの活動にさしかえるので、渡部、秋元2名に事務局の応援を頼んだところです。よろしく。(古知)

編集部から

勤務先のみなさんの協力により、情報誌の印刷方法を変え、きれいな物が出来あがったと思います。今度は写真も入りますので、面白いモノクロがありましたら送って下さい。また、会員から最近の情報誌は淋しくなったという声を聞きますが、会員みなさんの情報誌なので、できるだけ面白く原稿を送って欲しいと思います。一緒に楽しい情報誌を作っていきましょう。(羽鳥)

まだ完全にギブスは取れませんが、杖からは解放され、やっと行動範囲が広がってきました。いつも自分では20才のつもりでも、骨

のつきが悪いのと思うと、やっぱり年なんだナァーと思ひ知らされます。そんな訳で動き回るとは苦痛ですが、情報誌づくりに頑張りました。(佐久間)

((スケジュールメモ))

- ▼7月31日(日) 午後1時半～5時
滝野川会館
保育研究グループ会合
- ▼8月6日(出) 午後1時半
8月交流会 神宮前区民館
- ▼8月31日(出) 午後1時～4時
共同保育・ヘルパー制のアンケートまとめ 千駄ヶ谷区民館
- ▼9月2日(出) 午前11時、午後2時、午後6時
あんふぁんて映画会 千駄ヶ谷区民館

入会申し込みは切手300円分を同封して、氏名・住所・電話番号・郵便番号を書いて封書でお願いします。宛先
あんふぁんて事務局
参加費の振込先
あんふぁんての会。月300円です。会員番号を記入して郵便局で振込んで下さい。